

令和2年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

◆市町村名

八百津町

◆配属部署

教育委員会

◆家庭教育支援員の役割

- ・本町においても少子高齢化が進み、ICTの普及が進められている。一方で、いじめや不登校の問題や家庭教育の重要性がますます求められている。
- ・乳幼児学級から保育園、小中学校での家庭教育の充実を図り、子育てや教育を通して、人間関係の構築をめざしている。
- ・すべての保護者に対して、家庭教育への関心を深めてもらうため、在宅型を取り入れた活動を行う。
- ・各保育園や小中学校との連携を図り、相談員の派遣や教育相談の充実を図る。

◆主な活動

- 乳幼児学級を開催し、乳幼児を持つ保護者への支援及び学級生の交流を図る。保育園長及び小中学校の教頭を家庭教育主事として、計画・立案の際の指導・助言を行う。特に情報モラル教育、いじめ・不登校への今日的課題解決への内容に力をそそぐ。



＜乳幼児学級での「芋ほり体験」の様子＞

16組の親子、35名の参加があり、畑の中からでてきた大きな芋に歓声があがりました。地域講師の方からは干芋や焼き芋をいただき、親子で味わうこともできました。

コロナ禍の中、広く間隔をあげ、工夫された活動になりましたが、参加した親子にとって、自然体験や人とのふれあいを感じる活動になりました。

- 家庭教育に関する相談活動の充実に向けて、保育園及び小中学校との連携を強化する。必要に応じて、相談や訪問をし、関係機関との連絡・調整を行う。
 - ・各学校でいじめや不登校の実態調査を行い、すべての事案について確認を行い、必要に応じて、教育相談委員会やケース会議を行った。
 - ・町に教育相談専門委員を置き、定期的な教育相談を実施した。
- 本年度は、コロナ禍の中、予定していた活動が十分にできない状況であったため、特に在宅型家庭教育学級を推進し、小中学校の家庭教育学級により多くの保護者が参加できる体制を整えた。
 - ・家庭教育チャレンジ週間を実施し、親子で「できること」を決め、チャレンジカードに記入する活動を行った。
 - ・チャレンジカードは学校に提出され、多くの取組の成果が見られた。

◆成果

- 定期的な学校訪問を通して、家庭教育学級への具体的な指導をすることができた。
 - ・地域講師の紹介、地域人材の確保を行う。
 - ・コロナ禍での開催について、助言をする。
 - ・学校での家庭教育学級の開催について、内容や学習形態に助言をする。
- 情報モラル、いじめ、不登校などの現状を把握し、教育相談活動を積極的に実施することができた。
 - ・インターネットにつながる情報端末の所持の現状や使用時間などを示し、保護者と子どもの約束づくりなどの指導を進める。
 - ・個別に支援が必要な家庭を把握し、必要に応じて、教育相談専門職を派遣した。
- 在宅型家庭教育を取り入れることで、より多くの保護者の参加を得ることができた。
 - ・多くの取組が計画されていたが、コロナ禍の中、制限を余儀なくされているため、在宅型を多く取り入れ、家庭でできることに重点を置いて実施した。

◆問い合わせ先

八百津町教育委員会生涯学習係

小川 由香